52th


あずまくん

川越市立霞ケ関東小学校だより

たいよう

第７号　令和８年１０月３０日（金）

学校教育目標
【た】たくましい子
【い】生き生きと活動する子
【よ】よく考える子
【う】美しい心の子

「一冊の本から広がる世界」

校　長　　関　根　　努



秋も深まり、朝夕の冷え込みに季節の移ろいを感じる頃となりました。雨天により延期となっていた運動会を、昨日、無事に開催することができました。日程変更にもかかわらず、多くの保護者や地域の皆様にご来校いただき、温かいご声援をありがとうございました。子どもたちは練習の成果を発揮し、一人一人が精一杯頑張る姿を見せてくれました。皆様のご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。

さて、秋といえば、「スポーツの秋」「芸術の秋」「食欲の秋」など、様々な楽しみがあります。運動会では「スポーツの秋」を満喫しましたが、今回は「読書の秋」について考えてみたいと思います。

皆さんは、最近、どのような本を読みましたか。夢中になってページをめくった本、思わず笑ってしまった本、読んだ後も心に残っている本など、誰にでも思い出の一冊があるのではないでしょうか。

本の魅力は、何といっても、ページを開くだけで様々な世界に出会えることです。行ったことのない国を旅したり、遠い昔や未来の世界を訪れたり、物語の主人公と一緒に冒険したりすることができます。想像を膨らませながら、自分だけの世界を楽しめることは、読書ならではの魅力だと思います。また、読書には、子どもたちの成長を支える様々なよさがあります。たくさんの言葉や表現に触れることで語彙が豊かになり、自分の考えや気持ちを伝える力が育ちます。物語の展開を予想したり、登場人物の行動について考えたりすることで、想像力や思考力も養われます。

そして、私が特に大切だと思うのは、読書を通して、人の気持ちを想像する力が育まれることです。登場人物と一緒に喜んだり、悲しんだりする中で、自分とは異なる立場や考え方に触れることができます。「自分だったらどうするだろう」と考える経験は、相手を思いやる心につながっていくのではないでしょうか。さらに、一冊の本が、新しい興味や関心を生み出すこともあります。読書をきっかけに生まれた「もっと知りたい」「調べてみたい」という気持ちは、子どもたちの主体的な学びにもつながります。

このように、読書には多くのよさがありますが、何より大切なのは、本を読むことを楽しいと感じることです。長い物語でなくても、絵本や図鑑、短いお話でも構いません。自分の好きなことや興味のあることから、本に親しんでほしいと思います。



ご家庭でも、ぜひ、お子さんと本について話す機会をつくっていただければと思います。一緒に本を読んだり、おもしろかった本を紹介し合ったりすることも、すてきな時間になることでしょう。

一冊の本との出会いが、子どもたちの心を豊かにし、新しい世界への扉を開いてくれることがあります。この秋、子どもたち一人一人が、心に残る一冊と出会えることを願っています。